●赤字からの次の事業

堤：どうしたらいいかわからず、でもここがうちの親父の経営手腕があったところで、ちょうど 2000 年に介護保険制度が始まりまして、その**介護保険制度の何かをしよう**というところで、グループホーム認知症対応型の認知症の方が入るグループホームを始めたんです。それでいくらか収益上げて、何とか認可外保育園を助けるみたいな状態でしたね。

宮本：しかし赤字の中、その閃きと行動力はすごいですね。

堤：**これも出会い**ですね。

　当時なんでグループホーム始めようかと思ったかっていうと、母の大高時代の同級生ある病院の先生のところに、母方のお母さんを（私のお婆ちゃんですね）そこの施設に預けるようになったんです。その後、ちょっと（お婆ちゃんも）いろいろひどくなって。私も大好きなお婆ちゃんだったんですけど認知症が進んで、私も孫として見られるような姿じゃなかったんですよね。
　その時いろいろ先生に相談もしてる中で、「**堤さん、グループホームとかこういうのがあるよ、やってみれば**」というお話をいただいたんです。
ある日、わからないだろうっていう前提で「お婆ちゃん、お婆ちゃんを連れてグループホーム たんぽぽの家かなんとかを始めるよ」って言ったら、その瞬間その祖母が正気に戻ったらしくて、（えー！！）　急にうちの親父ヒロユキって言ってるけど、急に「**ヒロユキさんよかったね。それはいいことだと思うよ**」と何分か話せたそうで。それでびっくりして、もう天の声っていうか、これはもう絶対やろうということで始めたらしいんです。
私も聞いたときは「本当ね？！」って言うたけど、うちの親父も特にお袋は真面目なんで嘘は言わないと思うんです。そういうのがあって自信持って進めようということが、介護部門を始めたきっかけですね。

宮本：ただ、保育園事業がちょっと最初厳しかったっていうお話だから、その状況の中でまた新しい新規事業にダイブするいうのはなかなか勇気がいることだと思うんですよね。